

## 温室効果ガス削減計画

### 1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社DNPファインオプトロニクス 三原東工場

(2) 事業所の所在地

広島県三原市沼田西町小原73-1

(3) 業種

2899 その他電子部品・デバイス・電子回路製造業

(4) 事業所位置図  
別紙のとおり

### 2 計画の期間

本計画の期間は、平成25(2013)年度を基準年度とし、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間とする。

### 3 計画の基本的な方向

DNPは、2050年までに「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現を目指しています。  
(DNPグループ環境ビジョン2050)

2021年度以降の目標(GHG削減目標を更新)  
GHG削減目標 2030年までに2015年度比40%削減

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO <sub>2</sub> ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和2（2020）年度
二酸化炭素	117,680	53,607

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO <sub>2</sub> ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和2（2020）年度
二酸化炭素		

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO <sub>2</sub> ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和2（2020）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス ( HFC PFC SF6 NF3 )		

## 5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25 (2013) 年度)	削減目標		目標年度 (令和12 (2030) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2	117,680	54.4	63,954	53,726
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方	GHG削減目標 2030年までに2015年度比40%削減で目標設定			

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 ( ) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 ( ) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2							
非エネルギー起源CO2							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

## 6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	燃料使用量の削減	燃料使用量を年1.0%以上削減	・効率の良い設備の稼働率UP ・冷凍機の更新検討 ・温湿度設定や運転状況の見直し 等
2	電力使用量の削減	電力使用量を年1.0%以上削減	・不要設備の停止 ・設備機器の適正運転 ・太陽光発電設備の導入、検討 ・照明LED化 等
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

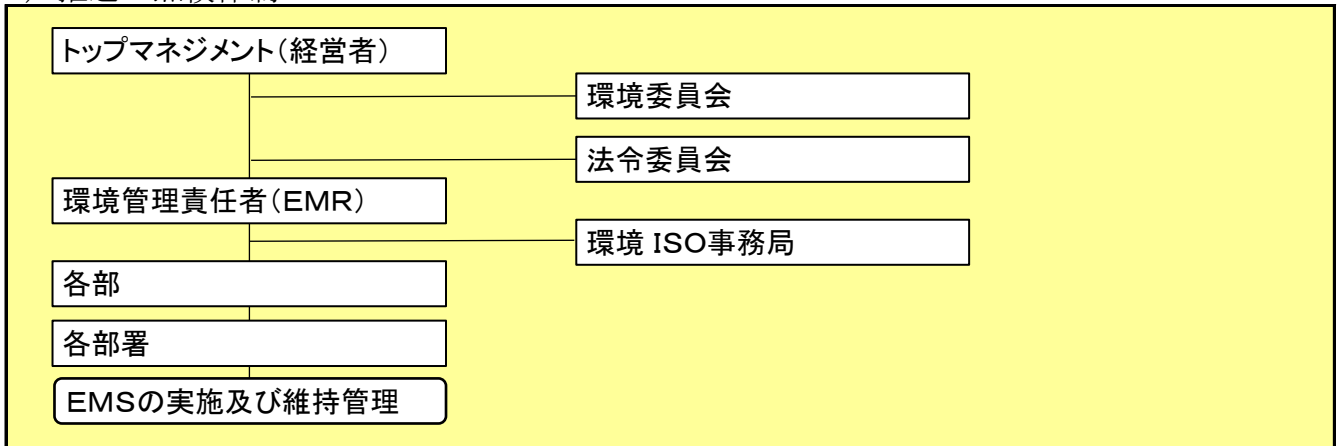
### ○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	産業廃棄物削減	ゼロエミッション (最終処分場利用率0.5%以下) を維持	設備、技術、生産工程の改善 分別回収、リサイクルの推進
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

## 7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

### (1) 推進・点検体制



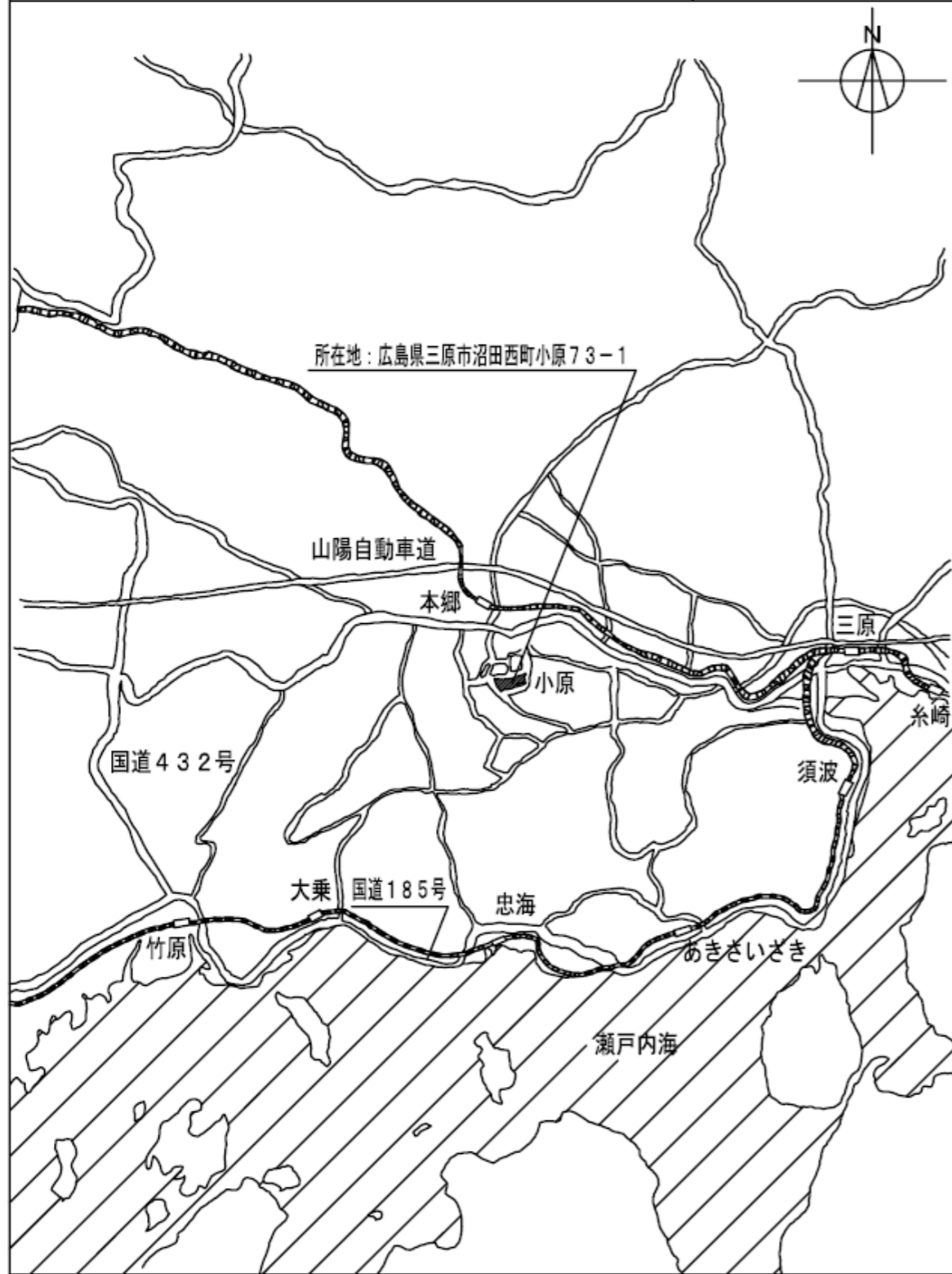
### (2) 実施状況の点検・評価

三原東工場の環境目標を達成するために、ISO14001システムに基づく各部門での省エネルギー(温室効果ガス削減)活動状況を、毎月実施している環境委員会にて報告することで、定期的な評価・見直しを行い、継続的な向上を図る。

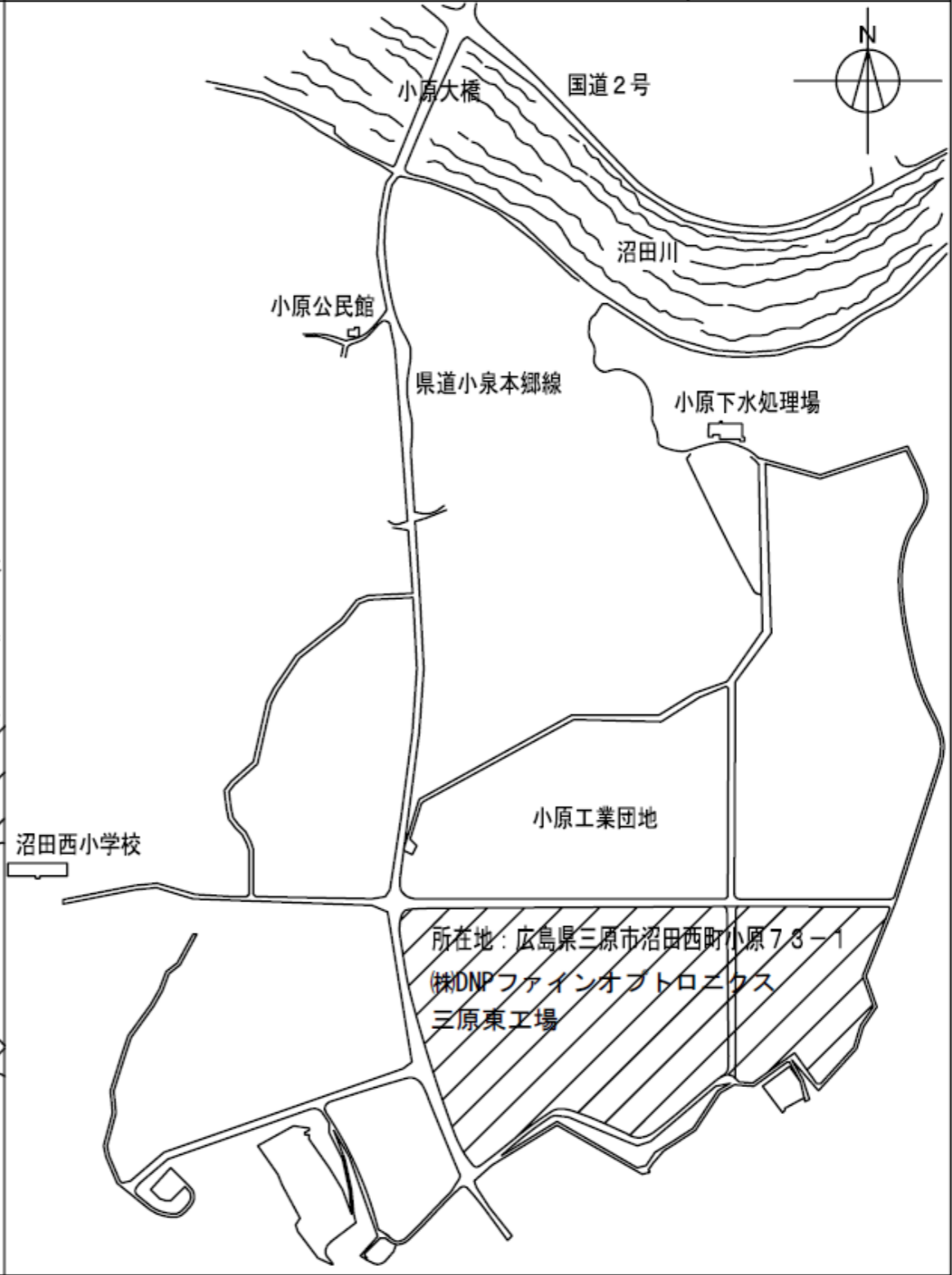
### (3) 計画書等の公表

株式会社DNPファインオプトロニクス 三原東工場への備付による閲覧とする。

案内図



付近見取図






DNPは、2050年までに「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の具  
 2050年に実現するためにバックキャスト思考で考え、下記の2025年目  
 GHG削減の2030年目標（SBT認定）は、2020年度に前倒しでの達成  
 マイルストーンとしてより厳しい目標に変更し、WB2℃水準であることが認めら

GHG削減目標 旧目標：2030年までに2015年度比25%削減  
 新目標：2030年までに2015年度比40%削減

実施すること



項目		2025年
GHG排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率機器への更新</li> <li>・再生可能エネルギー利用の拡大</li> </ul>	
輸送環境負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低排出量車の導入</li> <li>・混載やモーダルシフトの拡大</li> </ul>	輸送燃料使用量 2015年度比
環境配慮製品・サービスの売上高拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境貢献製品の開発促進</li> <li>・リサイクルしやすい製品の開発促進</li> </ul>	スーパーエコプロダク を10%
資源循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不要物の最小化</li> <li>・リサイクルの促進</li> <li>・最終処分場利用率の最小化</li> </ul>	資源循環 2015年度比 ゼロエミッ
水使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の効率的利用</li> </ul>	水使用量売 2015年度比
VOC排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱臭装置の維持管理</li> </ul>	2015年度比
環境保全 <sup>※2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傾向管理による基準値遵守の徹底</li> </ul>	

※1 資源循環率：100%リサイクルしている紙有価物を除外した不要物（廃棄物+有価物）のうちマテリアルリサイクル率、固形燃料化、セメント燃料化および熱回収等はサーマル・リカバリーとしリサイクルから除

※2 環境保全項目：大気排出規制項目、排水規制項目、敷地境界における最大臭気・最大騒音・最

実現を目指しています。(DNPグループ環境ビジョン2050)

目標を設定しました。

が見込まれるため、2050年排出量ゼロを実現する

ため2021年4月にSBT更新認定を取得しました。

SBT (SBT)

SBT (SBT更新)

